

.....

【体験した事例の直接的原因について】

【体験した事例について】

事例情報シート解析候補 (2009)

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[34]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[14]年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 [その他：救助小隊長]
○当事者B	年齢[32]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[9]年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B	現場到着し、屋内階段から濃煙の3階へ進入	
経過2	当事者A・B	3階部分の火炎を鎮圧。	
経過3	当事者A・B	3階階段室部分にホースを置き、退出。	
経過4	当事者A・B	屋外から梯子を3階の窓にかけ、屋内進入。	室内に火炎等無し。
経過5	当事者A・B	天井部分から隣の部屋の焼損状況を確認。	
経過6	当事者A・B	隣の天井部分に火炎を確認。	
経過7	当事者A・B	階段室のホースで消火しようとする方向に向かう。	ホースまで約5M。
経過8	当事者A・B	熱気を感じ、注意を促す。	
経過9	当事者A・B	熱気が増し、窓からの緊急脱出を指示。	
経過10	当事者A・B	窓枠部分で後方天井部分に火炎を確認。	

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。他隊(員)との連携活動がうまくいった。その他：普段の訓練において、同じ状況を想定し訓練を行っていた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

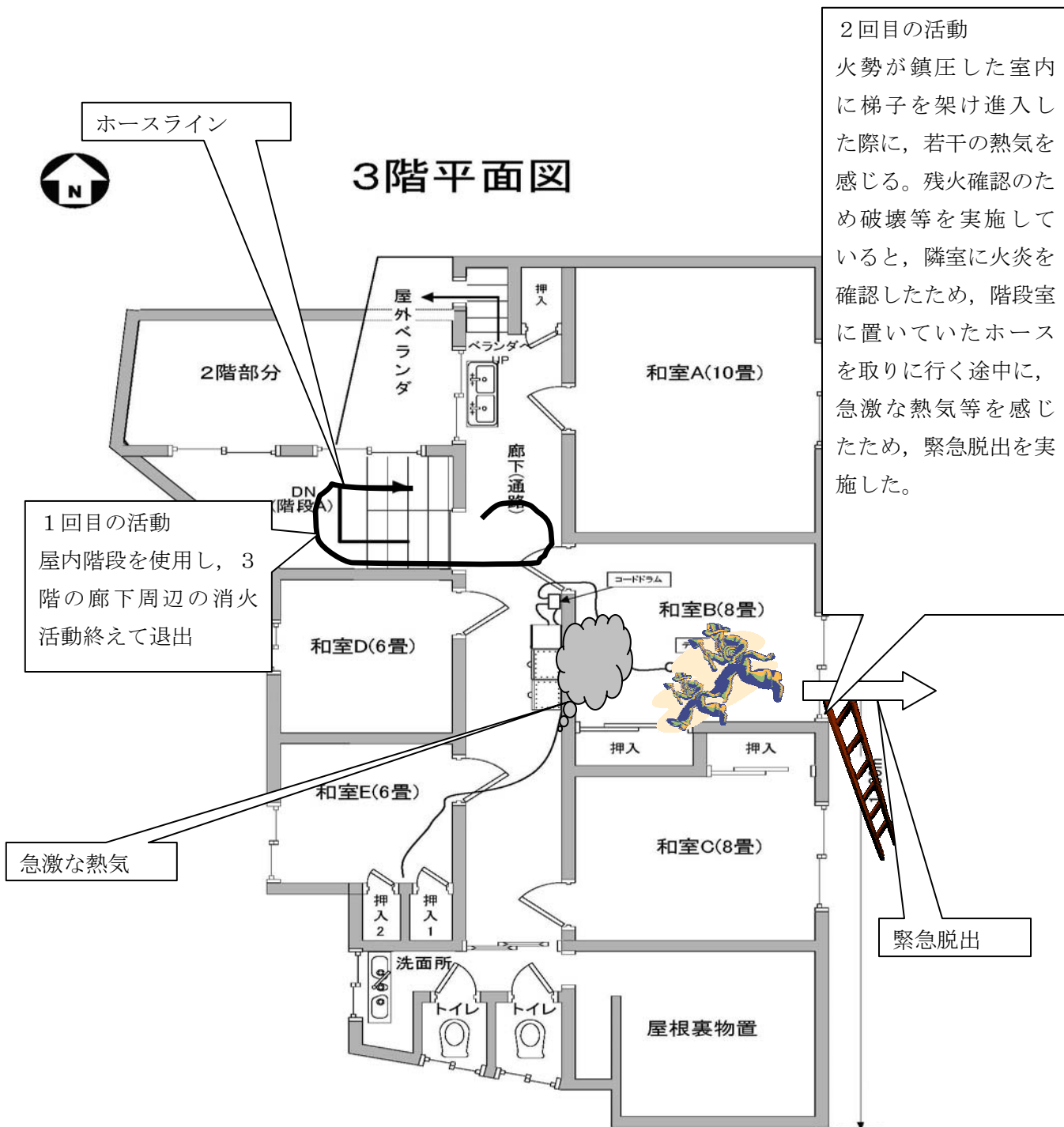
k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：建物の特異的な構造により、進入した部屋は鎮火していたが隣室の煙が流れ込むこみ、溜まっていることを予測できなかった。
--



・発生日時：平成20年12月31日 午前1時頃

経過	現場の状況	隊員A(救助小隊長)	隊員B	備考
		救助隊／消防士長 ・年齢 34歳 ・勤続 14年 ・現場 14 年 ・同様の活動：頻繁	救助隊／消防士長 ・年齢 32 歳 ・勤続 9 年 ・現場 9 年 ・同様の活動：頻繁	
出動指令 出動途上 現場到着 活動初期	建物火災発生			火災への消防出動
	出動指令			
活動中期		現場到着し、屋内階段から濃煙の3階へ進入		再燃の可能性は低いと思われた
		3階部分の火炎を鎮圧。		
		3階階段室部分にホースを置き、退出。		
		屋外から梯子を3階の窓にかけ、放水活動及び、破壊活動を行う		
	室内に火炎等なし 進入した室内は鎮火状態			
		屋内進入		
		天井部分から隣の部屋の焼損状況を確認		
		隣の天井部分に火炎を確認		
	ホースまで約5m	階段室のホースで消火しようと取りに向かう		
		熱気を感じ、注意を促す		
活動後期	急激な熱気の上昇	熱気が増し、窓からの緊急脱出を指示		
		窓枠からの緊急脱出		
		窓枠部分で後方天井部分に火炎を確認		

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○直接的な原因：行動の意志決定に問題があった。

- ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。
- ・危険情報を把握、予見できた。
- ・危険事象の対応方法を知っていた。
- ・集中力、注意力があった。
- ・避難・退避がうまくいった。
- ・他隊(員)との連携活動がうまくいった。
- ・普段の訓練において、同じ状況を想定し訓練を行っていた。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

(活動環境について)

- ・野次馬が多かった
- (その他)
- ・建物の特異的な構造により、進入した部屋は鎮火していたが隣室の煙が流れ込むこみ、溜まっていることを予測できなかった。